

北里研究所・東洋医学総合研究所活動報告

(平成20年4月1日より、学校法人北里研究所・北里大学東洋医学総合研究所に改組)

所 長 花 輪 壽 彦(WHO伝統医学
研究協力センター長)
担当理事 土 本 寛 二
WHO担当理事 山 田 陽 城
名誉所長 大 塚 恭 男

本年度は新棟9年目を迎え、診療・研究・教育・啓発を中心とした事業を展開した。

公益事業としては、これまで同様にWHO伝統医学研究協力センター活動、研究活動、及び教育活動を行った。

1) 大学院・学部教育

大学院教育：花輪壽彦所長・教授は北里大学大学院医療系研究科「東洋医学」の指導教授(連携大学院客員教授)として「東洋医学」専攻の7名の大学院生の教育・研究指導を行った。山田陽城部門長は北里大学大学院感染制御科学府(学府長：山田陽城)の「和漢薬利用科学」の主科目の講義と特別研究指導教授として1名の博士課程の大学院生及び7名の修士課程の大学院生の教育・研究指導を行った。研究指導は北里大学北里生命科学研究所(所長：山田陽城)の和漢薬物学研究室で行った。清原寛章基礎研究部副部長(准教授)は大学院感染制御科学府の「機能性分子科学」の副科目の講義を行った。清原副部長に加え、永井隆之室長補佐(専任講師)、松本司室長補佐(専任講師)、矢部武士主任(専任講師)も同大学院の基本技術講座を始め研究室所属大学院生の特別研究の指導を行った。

学部教育：花輪壽彦所長・教授は引き続き北里大学客員教授として薬学部(東洋医学概論)の講義を清原寛章副部長(兼任)、早崎知幸副医長(講師)とともに行った。また、花輪所長・教授は医学部の講義を、また山田陽城部門長は兼任で薬学部(生薬学)の講義を担当した。金成俊薬剤部長は、薬学部(漢方病院実習)の講師として薬剤部職員と共に薬学部学生に対し漢方実習の指導を行った。伊藤剛漢方診療部副部長は、医学部(薬理学総論)の講師として医学部生に対し漢方臨床実習について東医研各部部长、室長の協力のもと指導した。また東医研からは外部の10大学医学部や薬学部講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行った。

2) 啓蒙活動

北里研究所・東洋医学総合研究所では東洋医学の啓発活動の一環として、10月13日には第7回東洋医学健康フォーラムが開催され、約300人の市民参加のもと、統一テーマ「漢方・鍼灸”心とからだ”の処方せん」により花輪所長の基調講演「全人的医療の東洋医学」に続き、「漢方・鍼灸治療の実際」として施設紹介並びに治療風景をビデオにて紹介した。

続いて東洋医学総合研究所医師によるパネルラウンドディスカッション、また漢方薬の試飲などが催された。

その他の活動として各種団体への講師派遣、新聞雑誌への原稿提供、マスコミの取材等積極的に活動した。

3) 第29回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

平成19年7月30日から8月3日の5日間に渡り、第29回医学生・研修医のための東洋医学セミナーが開催された。今回の参加者は、北は北海道から南は沖縄から医学生22名、医師7名の計29名の参加があった。以前の当セミナー参加者に勧められて参加した人や、他のセミナーに比べ実習が盛り込まれているため参加したという人もいた。

講習は、漢方・鍼灸の基礎理論から、臨床例による応用的な内容についてもカリキュラムに組み込み、さらに大学では聴くことのできない医史学や最先端の研究成果も紹介した。初日に行われた漢方実習は白熱したものになっていた。実習は4~5人程度の小グループに分かれ、各先生が付き、実際に一人一人お互いに脈や舌やお腹を診合うというものであり、2時間の実習時間も足りないという印象であった。また、鍼灸や薬局実習もあり、東洋医学がより身近に感じられたことと考える。4日目には東京都薬用植物園の見学もあり、今年は元北里大学薬学部附属薬用植物園園長の吉川孝文先生にご講演して頂き、かなりの好評であった。最終日には特別講演として藍野加齢医学研究所所長の大澤仲昭先生より「漢方医学は100%治療学である」と実際の臨床に適した医学であるというお話や、千葉大学大学院医学研究院和漢診療学教授の寺澤捷年先生からは、一本一本の木を見る西洋医学と、森全体を見る東洋医学の両方をみられるようになって欲しいというメッセージが届けられ

た。今回参加された方達が、更に東洋医学を勉強し、実践されるきっかけになったことを願い、今後も、本セミナーの基本理念である「伝統医学の継承と発展のために」を目標に努力していきたい。

4) WHO 伝統医学研究協力センター関係及び国際交流

6月6日より7日までの2日間ベトナム国立伝統医学病院が主催した 15th Anniversary Cerebration of Hospitals Foundation and Scientific Conference on Integrative Medicine in Community Health に東医研 WHO 伝統医学研究協力センター・花輪壽彦センター長と小田口浩臨床試験室室長が招待され、花輪センター長は「漢方医学の現在の役割と将来の展望」を、また小田口室長は「伝統薬の有効性の臨床評価は如何に行うべきか」に関する招待講演を行った。

国際交流については、山田陽城研究部門長が、日・タイ学術交流事業の一環として訪タイし、タイ国立チュラボン研究所およびマヒドン大学薬学部にて「漢方薬の作用メカニズムと薬効成分の解明」に関する招待講演を行った。また、8月には上海で開催された 6th Meeting of Consortium for Globalization of Chinese Medicine (CGCM) に招待され「漢方薬の作用メカニズム解明のための方法論」に関する講演を行った。12月には台湾で開催された 14th International Congress of Oriental Medicine で「漢方薬の作用メカニズムおよび作用成分の解明のための新規方法論」に関する招待講演を行った。また、6月には Neglected Diseases に関する太平洋-アジア地域ネットワーク会議に招待され、「Neglected Disease 克服のための天然薬物プログラム」に関する講演を行った。清原寛章研究員は韓国国立動物薬検疫研究所が開催した日中韓3カ国国際シンポジウムにて「日本における動物用伝統薬物の開発と認可の現状」に関する招待講演を行った。

・診療部門

所 長	花 輪 壽 彦
診療部門長	石 野 尚 吾
漢方診療部	
部 長	村 主 明 彦
副部長(兼務)	伊 藤 剛
副部長(兼務)	及 川 哲 郎
副部長	鈴 木 邦 彦
副部長	早 崎 知 幸
医 長	五 野 由佳理
医 員	齊 藤 絵 美
特別研修医	関 口 敦 子 (3/31 まで)

特別研修医	卯 木 希代子
特別研修医	大 塚 静 英
特別研修医	望 月 良 子 (4/1~)
特別研修医	山 田 和 美 (4/1~)
特別研修医	石 井 恵 美 (4/1~)
客員部長(兼務)	柳 澤 紘
客員医師	頼 建 守
客員医師	櫻 井 正 智
客員医師	高 橋 裕 子
客員医師	大 坪 眞 紀
客員医師	八 代 忍
客員医師	蒲 生 裕 司
客員医師	星 野 卓 之 (4/1~)
客員医師	渡 辺 浩 二 (4/1~)

漢方診療の活動概要

北里東医研の診療部門及び薬剤部門は、より親しみやすい漢方鍼灸治療センターの呼称を冠し、さらなる発展を目指している。

当研究所の漢方外来では、湯液を中心にした診療を行っている。当然のことながら、漢方独特の診察法である四診に基づいた随証治療であり、患者個人個人の病態に合わせたキメの細かい、テーラーメイド医療を実践している。

また全国からの患者様を受け入れるために、6つの診察室を毎日フルに活用している。受診時間に関しても、より幅広いニーズに応えるため「トワイライト外来」を設置している。金曜日のみではあるが夜7時まで診療を行い、従来受診できなかった患者への対応を図っている。

漢方診療専門機関である当診療部門には伝統的随証治療の修得と漢方医学の科学的解明を目的に全国、時に世界各地から多くの医師が集まる。受け入れにはいくつかのルートがあるのでここに紹介する。

第一は当研究所独自の漢方特別研修医師制度である。所属する医局の教授や病院長などの推薦のもと、2年の年限で漢方医学の実際を会得することを目標にしている。1期2~3名を定員とする。漢方については初心者であっても、それぞれの専門分野では既に専門医として第一線で活躍している中堅医師が大半であり、各専門分野に関する最新の知見については、漢方常勤医が逆の立場で教わることも多く、互いに鼓舞されるところ大である。第二として、花輪壽彦所長が教授を兼任する北里大学大学院医療系研究科東洋医学の院生が、漢方診療の研修と漢方の基礎、臨床研究に携わっている。従来の個別性を大切にした漢方に、EBMの新しい切り口を加えるべく日夜奮闘中である。第三は北里大学医学部学生の漢方外来見学で、同

医学部公衆衛生の実習の一環として受け入れを要請されているものである。第四は少数であるが、個人的な依頼による短期見学（ただし運営会議において了承される必要あり）である。

月曜日午前は所長の指導外来枠となっており、先輩医師の指導のもと、特別研修医師あるいは大学院生が輪番で予診をとり、漢方医学的仮診断・処方（鑑別処方を付記）を決定した後、所長の本外来に臨む。漢方診療のプロセスを体得できる数少ない機会である。この他当研究所ではオーベン・ネーベン制を導入しており、オーベン外来への陪席の他、マンツーマンでの古典の読み合わせなどが行われている。

外来以外にも漢方を学ぶ機会が用意されている。新患検討会、医局薬局勉強会、フォローアップ検討会、古典勉強会、抄読会・リサーチカンファレンスなどである。このうち、新患検討会は、会に先立つ1週間の全新患を各担当医がプレゼンテーションする会である。この会で使用するデータベース作成の作業が特別研修医師に課せられる。新患ひとり一人の舌証・脈証・腹証・方剤等を打ち込んで行くきわめて煩瑣な作業である。しかし、陪席できなかつた漢方医の処方決定のプロセスをつぶさに検証することにも繋がり、目的意識をもって取り組みれば、きわめて有益な漢方修得の機会となる。医局薬局勉強会は、生薬と漢方処方の合同勉強会。物心両面で医局と薬局の距離が近いのも東医研の良さのひとつである。フォローアップ検討会は、外来診療で経験した著効例や難治例など、注目すべき症例につき検討する会。古典勉強会では、小曾戸医史学研究部長による傷寒論など古典の概説が行われ、古典に一段深く接し理解する、非常に貴重な機会となっている。また花輪所長による傷寒雑病論講義も定期的に行なわれ多くの聴衆を集めている。時には広尾周辺の医家にゆかりの深い寺院をまわる、医史学史跡深訪ツアーも行なわれている。リサーチカンファレンスは、研究面での検討や結果報告を行う機会として、臨床研究部と合同で行っている。

医局には専用の百味筆筒が用意されていて、自身で自由に漢方薬を調合し服用することができる。研修医には研修期間中に大方の処方については、必ず煎じてその味・におい・服薬のしやすさ等を体得するよう要求される。個々の漢方薬の特徴をつかむと同時に、患者の立場にたった医療を感得する貴重な体験である。特殊な動物性生薬を含む方剤を北里東医研以外で体験試飲することはほとんど無理であろう。ことほど左様に北里東医研では漢方三昧の日々を送ることが可能で、漢方を志す者にとっては正にパラダイスと言えよう。

特別研修医師・常勤医も含め、医局員の大半は臨床研究部研究員および隣接する北里研究所病院総合内科医師を兼任している。必要があれば動物も含めた各種実験・研究も行える。また各種血液・生化学検査、画像診断、光学医療診断を行なうことも可能で、診療の自由度という点では申し分のない環境である。東医研から北里研究所病院には毎週上部消化管検査および下部消化管検査に人員を提供している。さらに、同病院の内科当直業務も分担し、万全な協力体制がとられている。

平成20年4月には学校法人北里学園と社団法人北里研究所の統合がなされ、学校法人北里大学東洋医学総合研究所として新たなスタートを切る。この統合を単なる組織上の改変ではなく、新たな誕生と捉え、より一層の質の向上をはかっていく所存である。特別研修医師は漢方レジデントとして、これまでの2年から3年へ研修期間が延長となる。日本東洋医学会漢方専門医の養成カリキュラムに完全に準拠し、パーフェクトな研修が実施される。このような養成システムをもった漢方機関は他になく、日本漢方教育の嚆矢となることは間違いない。また、漢方研修生制度も充実させ、開業医等で診療所を構えながら漢方専門医を目指す医師にも広く門戸を開いている。診療・教育・研究のバランスを常に保ちながらその発展に寄与することこそ、日本の本格的漢方診療研究機関のパイオニアを自認する北里・東医研の使命である。

原著論文

- 1) 系数七重, 萩原幸夫, 佐竹元吉, 花輪壽彦, 村主明彦, 平井敏樹, 三上正利, 中村高敏, 大窪敏樹, 松本良三, 西川 徹, 北山日出男, 合田幸広: 一般用漢方処方の使用実態調査 AUR (Actual Use Research) および AUR を用いた加味逍遙散の特徴解析, *J. Trad. Med.* 24(3): 104-114 (2007)
- 2) T. Hayasaki, M. Sakurai, T. Hayashi, K. Murakami and T. Hanawa: Analysis of Pharmacological Effect and Molecular Mechanisms of a Traditional Herbal Medicine by Global Gene Expression Analysis: an Exploratory Study, *J. Clin. Pharm. Ther.* 32: 247-252 (2007)
- 3) T. Hayasaki, T. Matsumoto, Y. Nishimura, Y. Tabuchi, M. Obinata, T. Hanawa and H. Yamada: Effects of Hangeshashinto on Butyrate-induced Cell Death in Murine Colonic Epithelial Cell., *J. Trad. Med.*, 24: 81-86 (2007)
- 4) T. Hayasaki, T. Matsumoto, Y. Nishimura, Y. Tabuchi, M. Obinata, T. Hanawa and H. Yamada: Effect of hangeshashinto on butyrate-induced cell

death in murine colonic epithelial cell, J.Trad. Med 24 (3) : 81-86 (2007)

総説

- 1) 花輪壽彦:漢方臨床研究の展望, 日本東洋医学雑誌, 58(5) : 833-845 (2007)
- 2) 早崎知幸: The Present Situation and Problems of Traditional Medicine in the United Kingdom. , International Medical Journal, 14 : 93 - 96(2007)
- 3) 石野尚吾: 漢方初心者のために基本漢方処方 1 婦人科編, 漢方治療, 11(6) : 8-16 (2007)
- 4) 石野尚吾, 大塚純子, 幸田るみ子: 更年期と漢方医学, 産婦人科の世界, 59(9) : 97-105 (2007)
- 5) 五野由佳理, 花輪壽彦: 女性の頭痛と漢方療法, 産婦人科治療 「特集」女性の QOL と漢方, 95 (6) : 607-610 (2007)

著書

- 1) 花輪壽彦, 金 成俊: 第 1 章 漢方医学総論 1 漢方医学総論, 薬学生のための漢方医薬学, pp 1-7 (2007)
- 2) 花輪壽彦, 金 成俊, 緒方千秋: 第 1 章 漢方医学総論 4 漢方医学の歴史, 薬学生のための漢方医薬学, pp 26-36 (2007)
- 3) 伊藤 剛: 心身症の診断と治療 - 胃・十二指腸潰瘍 -, 心療内科・新ガイドラインの読み方, 永田勝太郎 (編), pp 331-334 (2007)
- 4) 伊藤 剛: 冷え症, 主治医が見つかる診療所-完全医療ガイド (南淵明宏監修), pp 64-67 (2007)
- 5) 早崎知幸, 金 成俊: 第 4 章 漢方薬処方の疾患への応用 2 現代医療における漢方処方, 薬学生のための漢方医薬学, pp 175-195 (2007)

症例報告

- 1) 伊藤 剛, 鈴木邦彦, 村主明彦, 花輪壽彦: ストレス性高体温症に加味帰脾湯が有効であった 1 例, 漢方の臨床 54(3) : 448-454 (2007)
- 2) 鈴木邦彦, 及川哲郎, 伊藤 剛, 花輪壽彦: 排膿湯が有効であった三症例, 漢方の臨床 54(12) : 1886-1890 (2007)
- 3) 早崎知幸, 及川哲郎, 頼建守, 花輪壽彦: 乾嘔 (からえずき) の治療経験, 漢方の臨床 54(1) : 136-140 (2007)
- 4) 斎藤絵美, 早崎知幸, 小田口 浩, 花輪壽彦: 芍帰調血飲が有効であった大腸憩室症の 1 例, 漢方の臨床 54(10) : 1584-1587 (2007)
- 5) 大塚静英, 石井恵美, 及川哲郎, 伊藤 剛, 花輪壽彦: 発汗異常に玉屏風散料が著効した 2

症例, 漢方の臨床 54(9) : 1437-1441 (2007)

- 6) 卯木希代子, 齋藤絵美, 早崎知幸, 伊藤 剛, 花輪壽彦: 治肩背拘急方の治療経験, 漢方の臨床 54(11) : 1737-1744 (2007)
- 7) E.Saito, Y.Takahashi, T.Hanawa: Three cases of dysmenorrhea in which hangekobokuto was effective, Journal of Kampo Medicine English Edition 2007 : 20-22 (2007)

学会・研究会発表

- 1) 花輪壽彦: 漢方診療の考え方と実際~漢方の望ましい場合とその処方について~, 総合診療推進セミナー (野村病院), 東京, 2007/4/23
- 2) 石野尚吾: 不妊と漢方, 日本漢方協会, 東京, 2007/1/21
- 3) 石野尚吾: 婦人科疾患の治験・症例解説, (財) 日本漢方医学研究所, 東京, 2007/12/9
- 4) 伊藤 剛, 井上愛子, 若杉安希乃, 及川哲郎, 花輪壽彦: 裏寒と手足厥寒における四逆湯の温熱生理学的検討, 第 58 回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 5) G. Ito, A. Inoue, A. Wakasugi, T. Oikawa and T. Hanawa : Estimation of pelvic core temperature from urine thermometry in women with cold sensation, 5th congress of the International Society for Autonomic Neurosciences (ISAN2007), Kyoto, 2007/10/5-2007/10/8
- 6) 鈴木邦彦, 花輪壽彦: 排膿湯が有効であった 2 症例, 第 58 回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 7) 早崎知幸: 現代の癌治療における漢方の役割, 第 16 回日本東洋医学会九州支部長崎県部会, 長崎, 2007/2/11
- 8) 早崎知幸, 花輪壽彦: 生薬の去方・減方が有効であった症例の検討, 第 58 回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 9) 五野由佳理, 齋藤絵美, 早崎知幸, 花輪壽彦: 順気により改善しえた多汗症の 2 症例, 第 58 回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 10) 五野由佳理: 頭痛の漢方治療, 東京都女性薬剤師会・夏季研修会漢方講座, 東京, 2007/7/8
- 11) 五野由佳理: めまいの漢方治療(心とからだ編), 第 7 回東洋医学健康フォーラム, 東京, 2007/10/13
- 12) 斎藤絵美, 早崎知幸, 村主明彦, 石野尚吾, 花輪壽彦: 芍帰調血飲が有効であった婦人科疾患の 4 例, 第 58 回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 13) 齋藤絵美: 女性と漢方, 第 7 回東洋医学健康フ

オーラム, 東京, 2007/10/13

- 14) 大塚静英, 伊藤 剛, 村主明彦, 花輪壽彦: 難治性であった顔面の皮疹に葛根紅花湯が著効した一例, 第 58 回日本東洋医学学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 15) 望月良子, 花輪壽彦: 随証治療が著効した慢性蕁麻疹の 1 例, 第 17 回漢方治療研究会, 東京, 2007/9/23
- 16) 山田和美, 花輪壽彦: 右下腹部痛に騰竜湯が著効した一例, 日本東洋医学会 第 64 回関東甲信越支部学術総会, 長野, 2007/10/21
- 17) 石井恵美, 花輪壽彦: 特異な臨床症状を呈した難治性皮疹に紫根牡蠣湯が著効した一例, 第 17 回漢方治療研究会, 東京, 2007/9/23
- 18) 卯木希代子, 鈴木邦彦, 及川哲郎, 花輪壽彦: 蘇子降気湯加紫蘇葉が奏効した耳鳴りの二症例, 第 58 回日本東洋医学学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 19) 有島武志, 若杉安希乃, 及川哲郎, 伊藤剛, 深尾篤嗣, 大澤仲昭, 花房俊昭, 石野尚吾, 花輪壽彦: 竜骨湯が著効したパニック障害の 1 例, 第 58 回日本東洋医学学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17

シンポジウム等

- 1) T. Hanawa: General introduction to Kampo, its present role and future perspectives, International Scientific Conference on Integrative Medicine in community health care, Vietnam, Hanoi, 2007/6/6-2007/6/7
- 2) 石野尚吾, 崎山武志, 渡辺賢治, 津谷喜一郎: (日本東洋医学サミット会議報告) 漢方の国際化について - 日本東洋医学会の取り組み, 第 58 回日本東洋医学学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 3) 村主明彦, 花輪壽彦, 吉田 威: (ラウンドテーブルディスカッション) 劇的に効いた漢方の経験第二回, 顔面神経麻痺に用いられる漢方処方傾向とその著効例, 第 58 回日本東洋医学学会学術総会, 広島, 2007/6/15-2007/6/17
- 4) 伊藤 剛, 及川哲郎, 花輪壽彦: (シンポジウム) 新しい消化管治療学 - 西洋医学の欠点を補う和漢薬の実力 - 温熱生理学的にみた過敏性腸症候群の病態, 第 24 回和漢医薬学会大会, 富山, 2007/9/8-2007/9/9
- 2) 花輪壽彦: 漢方のまとめ, 平成 18 年度漢方薬・生薬研修会, 東京, 2007/2/18
- 3) 花輪壽彦: 漢方医学の基礎 - ~ 総論・証 ~, 北研病院・東医研合同東洋医学(漢方・鍼灸)勉強会, 東京, 2007/2/23
- 4) 花輪壽彦: 漢方医学の基礎知識, 東医研看護師勉強会, 東京, 2007/2/26
- 5) 花輪壽彦: 漢方概論, 平成 19 年度漢方薬・生薬研修会, 東京, 2007/4/22
- 6) 花輪壽彦: 漢方各論-免疫・アレルギー-, 平成 19 年度漢方薬・生薬研修会, 東京, 2007/4/22
- 7) 花輪壽彦: 「漢方」ってなァに? ~ 漢方医学の特徴と診療の実際 ~, 同友クラブ, 東京, 2007/5/24
- 8) 花輪壽彦: 臨床からみた経験知と科学知, 第 24 回和漢医薬学会大会, 富山, 2007/9/8-2007/9/9
- 9) 花輪壽彦: 現代医療における漢方の役割, 日本東洋医学会卒前セミナー, 東京, 2007/8/20
- 10) 花輪壽彦: 漢方医学の臨床と研究, 第 3 回 東洋医学教育研究会, 浜松, 2007/10/4
- 11) 伊藤 剛: 二つの脳, 二つの医学, 北里大学同窓会広島県支部定期総会講演会, 広島, 2007/6/12
- 12) 伊藤 剛: 漢方医学概論, 消化器疾患・冷え症・疼痛性疾患の処方運用, 腹診と鍼灸の実技, 茨城漢方入門セミナー, 茨城, 2007/7/22
- 13) 伊藤 剛: 漢方医学の実際 - 証の解明 -, 第 29 回医学生・研修医のための東洋医学セミナー, 東京, 2007/8/1
- 14) 伊藤 剛: 診断学としての東洋医学(漢方・鍼灸), 第 4 回浜松医科大学東洋医学教育研究会, 浜松, 2007/11/8
- 15) 鈴木邦彦: 漢方医学の基礎 四診(脈診), 第 29 回医学生・研修医のための東洋医学セミナー, 東京, 2007/7/30-2007/8/3
- 16) 早崎知幸: 漢方医学の基礎 四診(望 聞 問 診), 第 29 回医学生・研修医のための東洋医学セミナー, 東京, 2007/7/30-2007/8/3
- 17) 早崎知幸: 漢方医学の実際 - 癌治療を中心に -, 第 29 回医学生・研修医のための東洋医学セミナー, 東京, 2007/7/30-2007/8/3
- 18) 早崎知幸: 生きる力を育む食 - 家庭の担う役割 -, 東根小学校家庭教育学級, 東京, 2007/11/16
- 19) 早崎知幸: 子どもを取り巻く環境や親子のコミュニケーション 「食」を中心として, 東玉川小学校家庭教育学級, 東京, 2007/12/17
- 20) 早崎知幸: 漢方の診察, 薬剤師生涯研修講座, 東京, 2007/12/25

講演

- 1) 花輪壽彦: 漢方各論 - 漢方診療の諸注意 -, 平成 18 年度漢方薬・生薬研修会, 東京, 2007/2/18

- 21) 早崎知幸:漢方診療の実際, 薬剤師生涯研修講座, 東京, 2007/12/25
- 22) 卯木希代子:呼吸器疾患と漢方治療, 東京都女性薬剤師会 夏期研修会漢方講座 2007, 東京, 2007/7/8
- 23) 卯木希代子:アレルギー疾患とやさしい漢方の話, 漢方パワーでアレルギーに克つ, 東京, 2007/10/19

講義

- 1) 花輪壽彦:東洋医学入門, 北里大学薬学部第3学年「東洋医学概論」, 東京, 2007/4/11
- 2) 花輪壽彦:東洋医学, 山梨県立看護大学講義, 山梨, 2007/4/26
- 3) 花輪壽彦:東洋医学 - , 北里大学医学部講義, 神奈川, 2007/5/11
- 4) 花輪壽彦:東洋医学 - , 北里大学医学部講義, 神奈川, 2007/5/25
- 5) 花輪壽彦:現代医療における和漢薬の役割, 平成19年度北里大学大学院感染制御学府修士課程「和漢薬利用科学」講義, 東京, 2007/7/18
- 6) 花輪壽彦:腎・尿路の東洋医学, 北里大学医学部4学年後期特別講義, 神奈川, 2007/12/18
- 16) 伊藤 剛:漢方総論, 公衆衛生学臨床実習講義, 北里大学医学部, 東京, 2007/4/23-2007/4/26
- 7) 伊藤 剛:東洋医学を看護に生かす, 東洋医学講義, 山梨県立大学看護学科, 山梨, 2007/5/17
- 8) 伊藤 剛:東洋医学と西洋医学, 医療論講義, 静岡県立大学看護学部, 静岡, 2007/5/31

その他

- 1) 花輪壽彦:漢方用語の基礎知識 虚実, 漢方医薬学雑誌, 15(1), 15,
- 2) 花輪壽彦:漢方なんでも道場, 日本経済新聞毎週火曜日夕刊・連載, 2007/1/9-2008/3/25
- 3) 花輪壽彦:東洋医学って何ですか?, Growing Reed, J-WAVE,
- 4) 伊藤 剛:冬でもぬくぬく!体ポカポカ術, 「生活ほっとモーニング」(8:30-9:20A.M.), NHKテレビ
- 5) 伊藤 剛:漢方特集, 「最終警告!ほんとは怖い家庭の医学」3時間スペシャル(19:00-21:50), テレビ朝日
- 6) 伊藤 剛:患者さんの喜びを生きがいに (医療関連求人特集), 朝日新聞,
- 7) 伊藤 剛:患者さんの喜びを生きがいに (医療関連求人特集), 朝日新聞,
- 8) 伊藤 剛:舌は語る体調や病気, 舌は体のペロメーター, 食べ物通信 310-12,

- 9) 伊藤 剛:体調不良や免疫機能低下, つらい夏の「冷え」, 漢方ではタイプ別に治療, 苫小牧民報,
- 10) 伊藤 剛:つらい夏の冷え, 体調不良や免疫低下, 主な原因は冷房, 茨城新報(夕刊),
- 11) 伊藤 剛:つらい夏の「冷え」, 体調不良や免疫機能低下招く, 漢方はタイプ別に治療, 釧路新聞,
- 12) 伊藤 剛:つらい夏の「冷え」, 体調不良や免疫機能低下招く, 八重山毎日新聞,
- 13) 伊藤 剛:冷え, 体調不良 免疫低下招く, 漢方 タイプ別に分け治療, 琉球新報(夕刊),
- 14) 五野由佳理:尿もれと漢方(1) 東洋医学から見た「おしっこのトラブル」(2) 弱った「腎」と「気」を補う漢方の処方(3) 賢い漢方診療のかかり方, ユニチャーム、ケアナビ・トピックス, 2月号 vol. 50-52
- 15) 五野由佳理:自然治癒力を高める漢方薬, インタープレス健康ニュース, 第2303号インタープレス
- 16) 五野由佳理、添田英里、浜田幸宏:明日から使える漢方実践服薬指導シリーズ 17 呉茱萸湯, 漢方医薬学雑誌, 15(3), 2-13, 臨床情報センター
- 17) 齋藤絵美:月経困難症, 週刊朝日, 2007 増刊号, 84-85, 朝日新聞社

-2. 鍼灸診療部

診療部門長	石 野 尚 吾
鍼灸診療部	
部長代理(兼務)	伊 藤 剛
客員部長(兼務)	柳 澤 紘
客員医師	伊 東 秀 憲
主任鍼灸師	石 原 武
主任鍼灸師	小 山 基
鍼灸師	小 池 真 理 (9/30 退職)
非常勤鍼灸師	掛 川 一 五
非常勤鍼灸師(兼務)	天 野 陽 介

診療概要

東洋医学総合研究所の鍼灸診療部の外来治療には、医師4名(常勤1名、非常勤3名)ならびに鍼灸師5名(常勤3名、非常勤2名)の9名が交代であたり、助手1名(非常勤鍼灸師)と研修生9名(鍼灸師)ならびに看護師1名がサポートしている。しかし9月以降常勤鍼灸師の退職により常勤鍼灸師は2名となった。診療は祭日を除く、月曜日から金曜日までの午前・午後と土曜日の午前を予約制で行っている。また、初診患者の予診は医師と鍼灸師が行ってい

るが、診療担当鍼灸師が行った予診結果については必ず医師（部長代理）が現代医学的チェックをして、新患については毎週1回（金曜日）診療スタッフと研修生とで新患検討会を行い、病名決定ならびに現代医学的判断を行っている。

9月以降は診療スタッフの人数が減ったため、一部新患を制限せざるを得なかった。しかし平成19年の初診患者数は911人であり、外来患者受診数は15,202人と例年並みであった。

教育概要

平成20年の北里学園との統合を踏まえ、平成19年度は教育と研究をこれまで以上に充実させるための準備期間と位置づけられる。そこで鍼灸師（鍼灸研修生）、医師（特別研修医など）、大学生（医学部学生、看護学部学生など）を対象に伝統的な鍼灸に加え、現代的な鍼灸学を踏まえた教育を実施した。その他ドイツから漢方を学びに来た留学生2名に対しても鍼灸講義と実習を行った。鍼灸師研修生は研修日の診療研修以外に、毎週金曜日に行う新患検討会や、鍼灸古典抄読会、現代鍼灸論文（英文）抄読会などの勉強会に参加した。

また東医研における教育においては、漢方（湯液）と同時に鍼灸に対する研修も強化した。漢方特別研修医には鍼灸輪読会と経穴・経絡実習、ならびに診療体験実習を隔週で週1回行った。なお、これらの研修システム以外で、数名の医師や鍼灸師に対し個人的な研修も行われた。

学生に対する教育では、医学部学生や看護学部学生に対する鍼灸講義ならびに鍼灸実習が行われた。石野部門長は昭和大学医学部、自治医科大学医学部、慶応義塾大学医学部にて、伊藤部長代理は北里大学医学部、浜松医科大学医学部、静岡県立大学看護学部、山梨県立大学看護学部で鍼灸講義や鍼灸実習を行った。

また毎年東医研主催で行っている「医学生のための夏期セミナー」では、全国から医学生や、すでに医師として活躍しており東洋医学の研修を希望する医師達が集い、1週間、漢方や鍼灸、漢方薬、医史学、臨床研究、基礎研究などの講義や実習では脈診の採り方、鍼の刺入方法などを体験学習し、好評を博した。

研究概要

世界的な視野を持った研究テーマを各自がもてるようにする。WHOでは伝統医学を守る上で、Evidence-based health care practiceを推進している。当鍼灸部門でも臨床研究と基礎研究によりEBMを作り上げる必要がある。現在検討中の臨床研究では、鍼灸の治療効果、鍼灸診断の現代医

学的評価、経絡治療の意義など、基礎研究では、鍼の作用メカニズム、各経穴に対する鍼の生理的作用、経絡現象の解明などである。その他、1987年から2006年の19年間、診療カードに記録しコンピュータに記録してきた診療データをまとめた。鍼灸関連文献、特に現代医学的文献の集積・整理による文献のデータベース化も着手した。

講演

- 1) 伊藤 剛：二つの脳 二つの医学，北里大学同窓会広島県支部定期総会講演会，広島，2007/6/12
- 2) 伊藤 剛：漢方医学概論、消化器疾患・冷え症・疼痛性疾患の処方運用 腹診と鍼灸の実技，茨城漢方入門セミナー，茨城，2007/7/22
- 3) 伊藤 剛：診断学としての東洋医学（漢方・鍼灸），第4回浜松医科大学東洋医学教育研究会，浜松，2007/11/8
- 4) 伊藤 剛：現代医学の諸問題と東洋医学の再評価，浜松市鍼灸マッサージ師会学術講演会，浜松，2007/12/2

講義

- 1) 石野尚吾：鍼灸医学の基礎，日本大学医学部講義，東京，2007/5/31
- 2) 石野尚吾：鍼灸医学の基礎、慶應義塾大学医学部講義，東京，2007/9
- 3) 石野尚吾：鍼灸医学の基礎，自治医科大学医学部講義，栃木，2007/10
- 4) 伊藤 剛：鍼灸医学概説，東洋医学講義，山梨県立大学看護学科，山梨，2007/5/17
- 5) 伊藤 剛：東洋医学と西洋医学，医療論講義，静岡県立大学看護学部，静岡，2007/5/31
- 6) 伊藤 剛：鍼灸医学の実際 - 鍼灸の科学 - ，第29回医学生・研修医のための東洋医学セミナー，東京，2007/7/31

その他

- 1) 伊藤 剛：冬でもぬくぬく！体ポカポカ術，「生活ほっとモーニング」（8:30-9:20A.M.），NHKテレビ

薬剤部門薬剤部

部門長（兼務） 山田 陽 城（～3/31）
部門長（部長業務取扱）金 成俊（4/1～）
科長代理 緒方 千秋
主任 坂田 幸治
副主任 西郡 秀文（3/31退職）
薬剤師 小林 文子
薬剤師 中村 恵子

薬剤師	坂本壮一郎(6/30 退職)
薬剤師	高際真奈未
薬剤師	室生真千子
薬剤師(嘱託)	須藤 岳大(2/1 入職)
薬剤師(嘱託)	山下 知子(3/1 入職)
薬剤師(嘱託)	中村ひろみ(4/1 入職)
薬剤師(非常勤)	佐々木花奈
薬剤師(研究員)	守屋美千代

研究概要

薬剤部では生薬調剤を基本としており、研究所における漢方の臨床薬局として、薬剤業務に関する諸問題改善を前提に各自が研究テーマを定め、テーマ毎に研究活動を行いその成果を学会等に報告している。今年度は各自が担当している研究内容について見直しを行い、年度内の達成目標を明らかにし、その成果を薬剤業務に反映できることを目標としたうえで研究計画を構築した。

今年度の研究内容は昨年の研究テーマを継続しており、一部の研究結果に関しては業務に反映し、また学会報告を行った。

- 1) 種子生薬の刻みの相違による成分抽出への影響
- 2) 漢方薬の抽出エキス量と濃度への影響
- 3) 外来患者の処方解析による服薬指導への応用
- 4) 漢方外来における疾患情報の服薬指導への応用
- 5) プレアポイド報告による薬剤師の医療業務における役割のあり方
- 6) 漢方薬局業務マニュアルの作成と活用
- 7) 病院実習書改訂版作成
- 8) 病棟業務の管理マニュアルの作成
- 9) 繁用生薬・処方における品質評価方法の検討
- 10) 医療用漢方製剤のロット間の比較検討
- 11) 漢方薬と他剤併用時のPC活用による服薬指導の検討
- 12) 古典煎出方法の意義に関する科学的解析
- 13) 生薬標本の総合的な情報の構築
- 14) 煎じ薬含有の無機元素に関する調査
- 15) 煎じ薬のレトルトパックの有用性及び安全性に関する検討
- 16) 初診患者の健康食品服薬状況の調査
- 17) 服薬時における医師情報の活用に関する検討
- 18) 漢方薬と西洋薬の併用による有用性の検討
- 19) 煎じ薬の苦みに対する飲料水によるマスキング効果の検討

薬剤業務の活動内容

テレビ放映による影響により急激に初診患者が

増加し、年度末まで患者の増加傾向は継続し、調剤数も昨年の1.5倍以上に達した。そのため、薬剤部は患者の調剤に日々追われ、1年間の業務が瞬く間に終了してしまっただけでなく、今年度は多くの初診患者に漢方薬の服薬指導を実施したが、一部の初診患者は具体的な漢方薬の薬効説明を望む声が聞かれた。漢方薬は幅広い疾患に用いられるため、医師及び薬剤師が口答による説明を行っているが、漢方薬の薬効に関して印刷物による情報提供の必要性も考えさせられた。このような理由から、北里研究所東洋医学総合研究所オリジナルの患者情報提供を次年度薬剤部の業務目標とする方向性が示された。

教育啓蒙活動

薬学大学における教育活動として、帝京大学薬学部東洋医学概論は継続して実施されており、さらに明治薬科大学、北里大学薬学部大学院に講師を派遣し、病院漢方薬局の業務に関して講義を行った。

薬学生や医学生の実習も例年通り実施した。特に今年度は薬学生の春期・夏期2週間実習以外に4週間の実務実習生2名を受け入れ、漢方薬局に関する充実した実習指導を行った。また韓国を中心とした海外からの教授や学生に対して、日本漢方の現状に関する講義を行った。

<教育(講義・実習)・見学研修>

2007/1/29: 韓国亜州医科大学, 医師・韓医師他6名見学研修

2007/3/5-16: 春期薬学生病院実習、北里大学薬学部6名, 明治薬科大学2名

2007/4/13: 北里大学薬学部大学院臨床薬学地域医療薬学(分担講義: 金成俊)

2007/5/9, 16, 23: 帝京大学薬学部東洋医学概論(分担講義: 金成俊)

2007/5/22, 6/26, 7/3: 明治薬科大学伝統医学概論(分担講義: 金成俊)

2007/5/26: 北里大学医学部生薬局実習

2007/6/4-29: 病院・薬局実務実習城西国際大学1名、日本薬科大学1名薬局実習

2007/7/30-8/10: 夏期薬学生病院実習, 北里大学薬学部4名, 明治薬科大学2名

2007/8/1: 医学生。研修医のための夏期セミナー薬局実習

2007/8/7: 韓国又石大学, 薬学部・韓薬部学生10名見学研修

2007/8/21: スペイン薬学生見学講義実習

2007/11/7: 東北薬科大学3名見学研修

2007/12/7: 釜山大学韓医科大学大学院, 医師・韓医師他教授4名見学研修

講演

- 1) 金 成俊：煎剤の調剤に必要な知識,日本東洋医学会専門医制度委員会東北地区委員会、仙台,2007/3/4
- 2) 金 成俊：心療内科疾患の治療 生薬解説 ,日本漢方医学研究所平成 19 年度臨床講座,東京,2007/3/11
- 3) 金 成俊：漢方薬の調剤・服薬指導に必要な知識,第 7 回宮城県東西医学研究会,仙台,2007/5/26
- 4) 緒方千秋:薬剤師として知っておきたい漢方服薬指導の実際,2007 東京都女性薬剤師会・夏季研修会漢方講座,東京,2007/7/8
- 5) 金 成俊：韓医学の現状,日本東洋医学会漢方医学国際会議 2,東京,2007/7/29
- 6) 金 成俊：平成 18 年度医学部・医科大学生のための卒然教育「処方概論及び実習」,日本東洋医学会,2007/8/23
- 7) 金 成俊：痛みの治療 生薬解説 ,日本漢方医学研究所平成 19 年度臨床講座,東京,2007/9/16

学会報告

- 1) 坂田幸治 緒方千秋 金 成俊 山田陽城 石野尚吾 花輪壽彦:臨床における生薬の評価方法の検討及び選品への活用,第 58 日本東洋医学会学術総会,広島,2007/6/15 - 17
- 2) 坂本壮一郎 坂田幸治 緒方千秋 金 成俊 山田陽城 石野尚吾 花輪壽彦:黄連解毒湯に対する飲料水混合時の味の検討,第 58 日本東洋医学会学術総会,広島,2007/6/15 - 17

その他

- 3) 金 成俊:韓国韓医学通信(第 20 報),漢方の臨床,第 54 巻 4 号(2007)
- 4) 金 成俊:韓国韓医学通信(第 21 報),漢方の臨床,第 54 巻 5 号(2007)
- 5) 金 成俊:韓国韓医学通信(第 22 報),漢方の臨床,第 54 巻 8 号(2007)
- 6) 金 成俊:韓国韓医学通信(第 23 報),漢方の臨床,第 54 巻 9 号(2007)
- 7) 金 成俊:韓国韓医学通信(第 24 報),漢方の臨床,第 54 巻 11 号(2007)

・ 研究部門

III. 研究部門

研究部門長 山田 陽城(兼任)

III-1. 基礎研究部

部長(兼任) 山田 陽城(北里大学北里生命科学研究所所長,同和漢薬物学研究室教授・同大学院感染制御科学府学府長,同教授)

副部長(兼任) 清原 寛章(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室准教授・同大学院感染制御科学府准教授)

室長補佐(兼任) 永井 隆之(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師・同大学院感染制御科学府講師)

室長補佐(兼任) 松本 司(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師・同大学院感染制御科学府講師)

室長補佐(兼任) 矢部 武士(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師・同大学院感染制御科学府講師)

研究員(兼務) 金 成俊(薬剤部部長)

研究員(兼務) 坂田 幸治(薬剤部主任)

研究生 佐柳 友規(北里大学大学院・感染制御科学府博士課程院生)

研究生 河村 有香(北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 清水ユリ子(北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 横澤恵美子(北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 片岡枝里花(北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 蓮見 菜月(北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 原田 成彦(北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を行った。特に漢方処方の薬効解明では臨床効果との関連を検討するため臨床研究部との共同研究も進めた。研究テーマは「漢方処方の薬効の解明」、「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」、「和漢薬の新しい作用とその作用成分の解明」の3つに大別される。

本年度の研究テーマのうち、「漢方処方の薬効の解明」では、1)小青竜湯の気道炎症に対する薬効

機序とプロテオーム解析、2)香蘇散の抗うつ作用の機序のプロテオーム解析、3)加味温胆湯の抗うつ作用の機序の解析、4)補中益気湯の腸管上皮細胞に対する作用と作用成分の解析について検討した。「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では、和漢薬に由来する腸管免疫調節活性を有する各種の多糖の活性発現糖鎖の解明について検討した。「和漢薬の新しい作用とその作用成分の解明」では、1)和漢薬などの植物素材からのマラリア、トリパノソーマ、インフルエンザウイルスなどに対する抗感染物質の探索研究、2)和漢薬の中樞神経系に対する作用の解析のための基盤研究と中樞神経疾患の新しい治療薬の探索について検討を行った。

また、日タイ拠点大学方式学術交流事業の一環として、タイのマヒドン大学薬学部の Noppamas Soonthornchareonnon 准教授を留学研究員として受け入れ、タイ産生薬からの抗感染薬の探索に関する共同研究を展開した。基礎研究部ではこの他国内やタイ、エジプト、サウジアラビア、ノルウェー、フランスなどの国外研究機関および大学などとの種々の共同研究を継続して進めている。

著書

- 1) 山田陽城:抗ウイルス活性物質,天然物化学 - 植物編 -, 山村庄亮,長谷川宏司(編), 220-230,アイピーシー,2007
- 2) 山田陽城:抗マラリア活性,天然物化学 - 植物編 -, 山村庄亮,長谷川宏司(編), 230-239, アイピーシー,2007
- 3) 山田陽城:漢方薬,天然物化学 - 植物編 -, 山村庄亮,長谷川宏司(編), 265-280, アイピーシー,2007
- 4) 山田陽城(共著):北里大学農医連携学術叢書 第2号“代替医療と代替農業の連携を求めて”,陽捷行(編),養賢堂,2007
- 5) 山田陽城,清原寛章,永井隆之,松本 司,矢部武士(共著):薬学生のための漢方医薬学,山田陽城,花輪壽彦,金成俊(編),南江堂,2007
- 6) H. Yamada and H. Kiyohara, “Immunomodulating Activity of Plant Polysaccharides Structures” In Comprehensive Glycoscience, Vol. 4 (edited by A. G. J. Voragen), 664-693, Elsevier, 2007
- 7) T. Takahashi, T. Matsumoto, N. Nakamura, H. Matsui, K. Tsuchimoto and H. Yamada : L-Lactic acid secreted from gastric mucosal cells enhances growth of *Helicobacter pylori*, *Helicobacter*, 12(5), 532-540 (2007)
- 8) K. T. Inngjerdingen, T. Patel, X. Chen, L. Kenne, S. Allen, G. A. Morris, S. E. Harding, T. Matsumoto, D. Diallo, H. Yamada, T. E. Michaelsen, M. Inngjerdingen and B. S. Paulsen : Immunological and structural properties of a pectin polymer from *Glinus oppositifolius*, *Glycobiology*, 17(12), 1299-1310 (2007)
- 9) K. Miki, T. Nagai, K. Suzuki, R. Tsujimura, K. Koyama, K. Kinoshita, K. Furuhashi, H. Yamada and K. Takahashi : Anti-influenza virus activity of biflavonoids, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 17, 772-775 (2007)
- 10) M. Nakamura, H. Matsui, S-Y. Murayama, T. Matsumoto, H. Yamada and K. Tsuchimoto : Interaction of VEGF to gastric low grade MALT lymphoma in C57BL/6 mice, *Infect. Immun.*, 75(3), 1214-1222 (2007)
- 2) K. Nishikawa, M. Nakamura, S. Takahashi, H. Matsui, S. Y. Murayama, T. Matsumoto, H. Yamada and K. Tsuchimoto : Increased apoptosis and angiogenesis in gastric low-grade mucosa-associated lymphoid tissue-type lymphoma by *Helicobacter heilmannii* infection in C57/BL6 mice, *FEMS Immunol. Med. Microbiol.*, 50(2), 268-272 (2007)
- 3) M. Endo, T. Oikawa, S. Nunome, H. Yamada and T. Hanawa : Pharmacological analysis for the optimal combination ratio of Shakuyaku and Kanzo in Shakuyakukanzoto, *J. Trad. Med.*, 24 (1), 39-42 (2007)
- 4) T. Hayasaki, T. Matsumoto, Y. Nishimura, Y. Tabuchi, M. Obinata, T. Hanawa and H. Yamada : Effect of hangeshashinto on butyrate-induced cell death in murine colonic epithelial cell, *J. Trad. Med.*, 24 (3), 81-86 (2007)
- 5) K. T. Inngjerdingen, H. Kiyohara, T. Matsumoto, D. Peterson, T.E. Michaelsen, D. Diallo, M. Inngjerdingen, H. Yamada and B.S. Paulsen : An immunomodulating pectic polymer from *Glinus oppositifolius*, *Phytochem.*, 68, 1046-1058 (2007)
- 6) T. Sanagi, T. Yabe and H. Yamada : Changes in pigment epithelium-derived factor expression following kainic acid induced cerebellar lesion in rats, *Neuroscience Lett.*, 424, 66-71 (2007)

原著

- 1) M. Nakamura, S-Y. Murayama, H. Serizawa, Y. Sekiya, M. Eguchi, S. Takahashi, K. Nishikawa, T. Takahashi, T. Matsumoto, H. Yamada, T. Hibi, K. Tsuchimoto and H. Matsui : Candidatus *Helicobacter heilmannii* from cynomolgus monkey

lymphoma by *Helicobacter heilmannii* infection in C57/BL/6 mice, *Inflammopharmacol.*, 15(3), 115-118 (2007)

総説

- 1) H. Yamada : Infectious diseases and Kampo medicines, In *Recent Advances in Wakanyaku (Japanese-Chinese traditional medicine) research in Japan and China*, The 23rd annual meeting of Medical and Pharmaceutical Society for "WAKAN-YAKU", p. 47-70 (2007) (Review)

プロシーディング

なし

招待講演

- 1) 山田陽城:ここまでわかった漢方の基礎医学, 第4回 OSAKA 漢方研究会プログラム, 大阪, 2007. 2. 24
- 2) H. Yamada : Action mechanism and active ingredients of Kampo (Japanese herbal) medicines, Mahidol 大学医学部での講演, Bangkok (Thailand), 2007. 2. 26
- 3) H. Yamada : Action mechanism and active ingredients of Kampo (Japanese herbal) medicines, Chulabhorn 研究所での講演, Bangkok (Thailand), 2007. 2. 27
- 4) H. Yamada : Natural products programmes at Kitasato, Pan-Asian Network for Neglected Diseases (PAN4ND), 中国・上海, 2007. 6. 4 ~ 6
- 5) H. Yamada: Strategy for Elucidation of Mechanism of Action of Kampo Medicine, 6th Meeting of Consortium for Globalization of Chinese Medicine (CGCM), 中国・北京, 2007. 8. 29 ~ 30
- 6) H. Yamada: Recent Progress on Elucidation of Mechanism of Actions and Active Ingredients of Kampo Medicines, 北京大学での講演, 中国・北京, 2007. 8. 31
- 7) 山田陽城: 腸管免疫と和漢薬, 第2回食品薬学シンポジウム, 静岡, 2007. 10. 18 ~ 19
- 8) H. Yamada: New Strategy for Elucidation of Action Mechanism and Active Ingredients of Kampo Medicines, 14th International Congress of Oriental Medicine, 台湾, 2007. 12. 1 ~ 4
- 9) H. Kiyohara: The current development situation and permission of veterinary herbal medicine in Japan, 日中韓3カ国国際シンポジウム, 韓国・衿川, 2007. 12. 7
- 10) 山田陽城: 粘膜免疫系を介した和漢薬の作用メカ

ニズム, 第7回日本臨床中医薬学会, 東京, 2007. 12. 8(大会長講演)

シンポジウム

- 1) 清原寛章, 松本司, 永井隆之, 山田陽城: 粘膜免疫系調節への応用を志向した漢方薬の腸管免疫系に対する作用と作用成分の解析, シンポジウム「21世紀の漢方薬研究を探る - 伝統薬から新しい治療戦略創出へのアプローチ」, 日本薬学会第127年会, 富山, 2007. 3. 28 ~ 30
- 2) 松崎敏明, 清原寛章, 松本司, 山田陽城: 和漢薬由来の腸管パイエル板免疫機能調節多糖の活性発現糖鎖と作用の解析, 大学院生シンポジウム「糖鎖関連分子による細胞機能の制御とその応用」, 日本薬学会第127年会, 富山, 2007. 3. 28 ~ 30
- 3) 松本司, 山田陽城: 腸管免疫系に対する漢方薬の調節作用, シンポジウム2 和漢薬と生体防御, 第24回和漢医薬学会大会, 富山, 2007. 9. 8 ~ 9

学会発表

- 1) 松本 司: 漢方基礎研究と臨床の視点から「腸上皮細胞株を用いた和漢薬の薬効発現機序の解析」, 第6回腸管機能と免疫研究会学術集会, 東京, 2007. 1. 27.
- 2) 永井隆之, 清水ユリ子, 清原寛章, 白畑辰弥, 砂塚敏明, 大村 智, 山田陽城: 漢方薬「小青竜湯」の構成生薬「半夏」由来ピネリン酸の経鼻接種インフルエンザワクチンに対するアジュバント活性における立体異性体の協力作用, 日本薬学会第127年会, 富山, 2007. 3. 28 ~ 30
- 3) 橋本良子, 永井隆之, 伊藤直樹, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 花輪壽彦, 山田陽城: 漢方薬「香蘇散」のストレス誘発うつ様モデルマウスに対する作用のプロテオーム解析, 日本薬学会第127年会, 富山, 2007. 3. 28 ~ 30
- 4) 平原博貴, 矢部武士, 伊藤直樹, 永井隆之, 花輪壽彦, 山田陽城: 神経幹細胞増殖促進活性を有する和漢薬由来成分の探索, 日本薬学会第127年会, 富山, 2007. 3. 28 ~ 30
- 5) 守屋美千代, 松本司, 清原寛章, 田淵圭章, 帯刀益夫, 山田陽城: 腸上皮細胞からのサイトカイン産生におよぼす補中益気湯の作用, 日本薬学会第127年会, 富山, 2007. 3. 28 ~ 30
- 6) H. Kiyohara, T. Matsuzaki, T. Matsumoto, T. Nagai and H. Yamada : Active carbohydrate structures and functions of the modulating polysaccharides on immunocompetent cells in Peyer's patches from plant origin, 13th International Congress of Mucosal Immunology (ICMI2007), Tokyo, 2007. 7. 9 ~ 12

- 7) T. Matsumoto, M. Moriya, H. Kiyohara, Y. Tabuchi, M. Obinata and H. Yamada : Hochuekkito, a Japanese herbal medicine, enhances G-CSF secretion of colonic epithelial cells, 13th International Congress of Mucosal Immunology (ICMI2007), Tokyo, 2007. 7. 9~12
- 8) 清原寛章, 松崎敏明, 松本 司, 山田陽城:天然植物素材からの新規パイエル板免疫機能調節多糖の探索, 日本応用糖質科学会平成 19 年度大会(第 56 回), 神奈川・藤沢, 2007. 8. 29~31
- 9) 清原寛章, 松崎敏明, 松本 司, 山田陽城:知母の腸管パイエル板免疫機能調節多糖の解析, 第 24 回和漢医薬学会大会, 富山, 2007. 9. 8~9
- 10) 松本 司, 守屋美千代, 田淵圭章, 山田陽城:柴胡のペクチン bupleuran 2IIc による腸上皮細胞からの G-CSF 産生促進とその機序の解明, 第 24 回和漢医薬学会大会, 富山, 2007. 9. 8~9
- 11) 矢部武士, 平原博貴, 伊藤直樹, 永井隆之, 山田陽城:神経系前駆細胞増殖促進活性を有する和漢薬由来成分の探索, 第 24 回和漢医薬学会大会, 富山, 2007. 9. 8~9
- 12) 清水ユリ子, 永井隆之, 清原寛章, 白畑辰弥, 砂塚敏明, 大村 智, 山田陽城:小青竜湯の気道炎症に対する作用及びインフルエンザワクチンに対するアジュバント活性の検討, 第 24 回和漢医薬学会大会, 富山, 2007. 9. 8~9
- 13) 西澤 愛, 松本 司, 清原寛章, 山田陽城, 渥美隆正, 外岡憲明:トウキンセンカエキスによる表皮ケラチノサイトのアポトーシス抑制, 第 24 回和漢医薬学会大会, 富山, 2007. 9. 8~9
- 14) 清原寛章, 石山亜紀, 市野 力, 生田目幸, 西原明希, N. Soonthornchareonnon, W. Chuakul, E. Abdel-Sattar, F. Harrz, S. El-Mekkawy, 乙黒一彦, 大村 智, 山田陽城:植物素材からの抗アフリカトリパノソーマ症物質の探索, 日本生薬学会第 54 回年会, 名古屋, 2007. 9. 14~15
- 15) 中村貴幸, 三木和彦, 木下 薫, 小山清隆, 高橋邦夫, 永井隆之, 山田陽城, 古畑公夫: Hinokiflavone-シアル酸配糖体の抗インフルエンザウイルス活性, 日本生薬学会第 54 回年会, 名古屋, 2007. 9. 14~15
- 16) T. Sanagi, T. Yabe and H. Yamada: Changes in pigment epithelium-derived factor expression following kainic acid induced cerebellar lesion, Society for Neuroscience, Neuroscience 2007, San Diego, CA, (U.S.A.), 2007. 11. 2~7
- 研究会特定委託研究成果報告会, 東京, 2007. 6. 29
- 2) 永井隆之, 橋本良子, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 伊藤直樹, 花輪壽彦, 山田陽城:ストレス誘発うつ様モデルマウスのプロテオーム解析による漢方薬「香蘇散」の抗うつ様作用に関する生体分子の検討, 第 5 回北里疾患プロテオーム研究会, 神奈川(相模原), 2007. 8. 1
- 3) 山田陽城:生薬・漢方薬の薬理作用 - 生活習慣病と漢方薬 -, 平成 19 年度漢方薬・生薬研修会, 東京, 2007. 9. 2
- 4) 松本 司, 山田陽城:柴胡に含まれる多糖類の構造と免疫調節活性, 第 23 回生薬に関する懇談会, 東京, 2007. 11. 24
- 5) H. Kiyohara: Mission of Kitasato Institute for Life Sciences, and opinion for application of herbal medicines on veterinary healthcare, National Veterinary Research and Quarantine Service 開催の Workshop, 韓国・衿川, 2007. 12. 6
- 6) 山田陽城:薬学教育と漢方 リレー寄稿 北里大学の場合, 漢方と最新治療 16(3), 世論時報社, 207-210 2007

-2. 臨床研究部

臨床研究部部長	花輪 壽彦(兼務)
臨床研究部部長代理	及川 哲郎(兼務)
臨床研究部室長	日向須美子(専任)
研究員	伊藤 直樹(専任)
	遠藤 真理(専任)
	金 成俊(兼務)
	坂田 幸治(兼務)
鍼灸研究室室長	伊藤 剛(兼務)
研究員	石原 武(兼務)
	小山 基(兼務)
	柳澤 紘(兼務)
	掛川 一五(兼務)
漢方研究室室長	村主 明彦(兼務)
研究員	伊藤 剛(兼務)
	鈴木 邦彦(兼務)
	早崎 知幸(兼務)
	五野由佳理(兼務)
	斉藤 絵美(兼務)
	卯木希代子(兼務)
	大塚 静英(兼務)
	石井 恵美(兼務)
	望月 良子(兼務)
	山田 和美(兼務)
	柳澤 紘(兼務)
	頼 建守(兼務)
	櫻井 正智(兼務)

その他

- 1) 永井隆之, 山田陽城:乳酸菌の産生する多糖体及び乳酸菌の感染防御作用, 平成 18 年度糧食

大学院生	高橋 裕子 (兼務)
	大坪 眞紀 (兼務)
	伊東 秀憲
	蒲生 裕司
	星野 卓之
	渡辺 浩二
研究生	八代 忍
	津田篤太郎
	井上 愛子
	米田 吉位
	有島 武志
	関口 敦子
	加-ス・フル-リツ(~12月)
	ケ-ス・ス-ファ-ニ- (~12月)
反保 有紀	
	森田絵理奈

研究概要

臨床研究部は、漢方診療部および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬、鍼刺激の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師、薬剤師等の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。

当研究部の研究テーマは多岐にわたっているが、大きく分けると下記のようにまとめられる。

1. 消化管に及ぼす漢方薬の影響に関する研究 (1) 機能的消化管疾患に対する漢方処方薬の薬効評価

漢方薬は胃腸によいといわれるが、漢方処方が消化管機能にどのような影響を及ぼしているかという点については、これまで十分なデータが示されてこなかった。当研究部では Functional dyspepsia や過敏性腸症候群といった機能的消化管疾患に焦点を当て、胃排出機能や腸管ガス量の測定などにより、漢方処方の薬効評価を試みている。

(2) 呼気試験を用いた消化機能研究

¹³C化合物による呼気試験を用いて、漢方処方の消化機能に及ぼす影響を研究している。

(3) 炎症性腸疾患に対する作用の検討

年々増加しつつある、潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患に対する漢方薬の効果や作用機序を、動物モデルを用いて検討している。

2. 精神神経疾患を中心とした気剤の薬効評価、気の科学的解明

(1) 漢方薬および生薬の香りの中樞神経系に対する作用の解析

漢方薬および生薬の香りのうつ症状に対する効

果を動物モデルを用いて検討し、その詳細な作用メカニズムを様々な実験手法を用いて多角的に研究している。

(2) 不安に対する気剤の効果の検討

東洋医学のみならず、精神医学、心理学、神経科学の知見を駆使して、不安に対する気剤の作用機序について検討している。

(3) 気の科学的解明

漢方医学における evidence の作成手法をテーマに研究を行っている。

(4) 気剤の効果の客観的評価

気血水理論の中で、「気」の解明は最も遅れている。我々は、「気」と密接に関連していると考えられる自律神経機能が、「気」の異常とどのように関連しているか、半夏厚朴湯をはじめとする気剤投与でどのような影響を受けるかを、瞳孔反応や心拍変動などを指標にして評価、解析している。

3. 悪性腫瘍に及ぼす漢方薬の効果と作用メカニズムの研究

(1) がん転移に対する漢方薬の作用機構の解明

漢方薬によるがん再発防止療法の確立を目指して、がん転移を抑制するような漢方薬をスクリーニングし、その作用機構を解析している。

(2) がん化学療法の副作用軽減に関する臨床研究

がん化学療法に伴う造血障害や末梢神経障害などの副作用軽減に、漢方薬の併用が有効かどうか臨床的に検証を行っている。

4. 婦人科系疾患に用いられる漢方薬の作用機序解明

更年期障害に用いられる漢方薬がエストロゲン様活性を有することを明らかにした。このような漢方薬はエストロゲン受容体に結合するのか、また、更年期障害モデルマウスに対してどのような効果を示すのかを検討している。

5. 冷え症の温熱生理学的解析

未だ科学的解明がされていない冷え症について、その病態と漢方方剤の有用性について臨床研究を行っている。

6. 高血圧に対する漢方薬の効果

漢方薬に降圧効果があるか、効果に証との関連があるかについて検討している。

著書・原著論文・総説・その他の発表

- Hyuga.S., Hyuga. M., Nakanishi. H., Ito. H., Watanabe.K., Oikawa. T. and Hanawa.T.:Maoto, Kampo medine, suppresses the metastatic potential of highly metastatic osteosarcoma cells, J. Trad. Med., 24, 51-58 ,2007
- Hu. D., Man. Z., Wang. P., Tan. X., Wang. X., Takaku. S., Hyuga. S., Sato. T., Yao. X.,

- Yamagata, S., Yamagata, T.:Ganglioside GD1a negatively Regulates matrix metalloproteinase-9 expression in mouse FBJ cell lines at the transcriptional level, *Connect. Tissue Res.*, 48(4), 198-205, 2007
- 3) Ito.H., Hyuga. S., Hyuga. M., Watanabe. K., Oikawa.T. and Hanawa. T. :Maoto, a Kampo medicine, suppresses human serum-induced motility of human breast cancer cells, *J. Trad. Med.*, 24(5), 168-172, 2007
 - 4) Endo. M, Oikawa. T, Nunome. S, Yamada. H, Hanawa. T: Pharmacological analysis for the optimal combination ratio of Shakuyaku and Kanzo in Shakuyakukanzoto. , *J. Trad. Med.* 24(1), 39-42, 2007
 - 5) 日向須美子:麻黄湯によるがん転移抑制機構の解明とがん再発防止療法への応用, 上原記念生命科学財団研究報告集, 27, 64-66, 2007
 - 6) 渡辺浩二:安全性評価を前提とした更年期頻用漢方処方女性の生殖器及びホルモン感受性腫瘍に対する作用解析, 上原記念生命科学財団研究報告集, 27, 99-101, 2007
 - 7) Ito. N, Gamo Y, Yabe. T, Oikawa. T., Yamada. H. and Hanawa. T.: Effects of i.c.v. injection of orexin A on cell proliferation in the dentate gyrus and behaviors, *Japanese Journal of Neuropsychopharmacology*, 27, 305, 2007
 - 8) 及川哲郎, 村主明彦, 伊藤剛, 花輪壽彦: 炎症性腸疾患の腹痛に対して漢方薬が有効であった3症例, *漢方の臨床*, 54, 1292 - 1296, 2007
 - 9) 及川哲郎:胃の症状に対する漢方治療(座談会), *伝統医学*, 35, 1-9, 2007
 - 10) 及川哲郎:消化管疾患と漢方, *漢方の臨床*, 54, 1839-1863, 2007
 - 11) Hyuga S. and Hanawa T.: The basic research of Kampo medicines in view of clinical application, *J. Trad. Med.*, 24(6), 177-186, 2007
- 学会発表・講演・その他研究会等発表
- 1) 及川哲郎:消化管機能に及ぼす漢方薬の効果, 第7回腸管の機能と免疫研究会, 東京, 2007.2.9
 - 2) 渡辺浩二, 日向須美子, 及川哲郎, 花輪壽彦.:更年期頻用漢方処方のエストロゲン様活性, エストロゲン受容体への結合および卵巣摘出マウスの子宮重量に及ぼす影響の検討, 第59回日本産婦人科学会学術講演会, 京都, 2007.4.14 - 17
 - 3) 及川哲郎, 伊藤剛, 星野卓之, 小山秀彦, 花輪壽彦:大腸運動に及ぼす半夏厚朴湯の効果, 第93回日本消化器病学会総会, 青森, 2007.4.21
 - 4) 及川哲郎, 花輪壽彦:清熱解鬱湯の使用経験, 第58回日本東洋医学会総会, 広島, 2007.6.15-17
 - 5) 日向須美子, 日向昌司, 伊東秀憲, 渡辺浩二, 及川哲郎, 花輪壽彦.:がん再発防止療法をめざした漢方薬のがん転移抑制効果の解析, 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007.6.15-17
 - 6) 伊東秀憲, 日向須美子, 日向昌司, 及川哲郎, 花輪壽彦.:麻黄湯のヒトがん細胞の運動能に対する効果の解析, 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007.6.15-17
 - 7) 渡辺浩二, 日向須美子, 日向昌司, 山口照英, 及川哲郎, 花輪壽彦.:更年期頻用漢方処方の閉経モデルマウス子宮重量に及ぼす影響, 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007.6.15-17
 - 8) 星野卓之, 蒲生裕司, 渡辺浩二, 伊東秀憲, 正田久和, 小田口浩, 若杉安希乃, 及川哲郎, 花輪壽彦:右季肋部痛を伴った難治性のうつ病に大柴胡湯が有効であった一例, 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007.6.15-17
 - 9) 蒲生祐司, 星野卓之, 渡辺浩二, 伊東秀憲, 正田久和, 小田口浩, 若杉安希乃, 及川哲郎, 花輪壽彦:脳性麻痺における自傷行為に甘草大棗湯が有効であった一例, 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島, 2007.6.15-17
 - 10) 伊藤直樹, 蒲生裕司, 矢部武士, 及川哲郎, 山田陽城, 花輪壽彦:Orexin A 脳室内投与の神経幹細胞挙動及びマウス行動に与える影響, 第29回日本生物学的精神医学会・第37回日本神経精神薬理学会合同年会, 札幌, 2007.7.11-13
 - 11) 松川哲英, 岡田真由美, 森加奈子, 田代修, 日向須美子, 花輪壽彦, 関田節子:Ephedra 属植物の癌細胞運動能抑制に関する研究, 日本生薬学会第54回年会, 名古屋, 2007.9.14-15
 - 12) 及川哲郎, 伊藤剛, 星野卓之, 花輪壽彦:下部消化管機能に及ぼす半夏厚朴湯の効果, 第24回和漢医薬学会, 富山, 2007.9.8-9
 - 13) 日向須美子, 伊東秀憲, 日向昌司, 渡辺浩二, 及川哲郎, 花輪壽彦.:麻黄湯の経口投与後に経時的に回収したマウス血清によるがん細胞の運動能及びがん転移関連遺伝子発現に対する作用の解析, 第24回和漢医薬学会大会, 富山, 2007.9.8-9
 - 14) 伊東秀憲, 日向須美子, 日向昌司, 渡辺浩二, 及川哲郎, 花輪壽彦.:麻黄湯を服用した健常人血清のヒトがん細胞の運動能に対する効果の解析, 第24回和漢医薬学会大会, 富山, 2007.9.8-9
 - 15) 渡辺浩二, 日向須美子, 日向昌司, 山口照英, 及

- 川哲郎,花輪壽彦,:更年期頻用漢方処方閉経モデルマウス子宮重量及び血中エストロゲン値に及ぼす影響,第24回和漢医薬学会大会,富山,2007.9.8-9
- 16)伊藤直樹,蒲生裕司,永井隆之,矢部武士,及川哲郎,山田陽城,花輪壽彦第:蘇葉成分 rosmarinic acid の抗うつ様作用メカニズムの解析 - 海馬神経幹細胞挙動に与える影響 -, 第24回和漢医薬学会大会,富山,2007.9.8-9
- 17)遠藤真理,及川哲郎,羽鳥 努,花輪壽彦:デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルに対する黄連解毒湯の効果の検討,第24回和漢医薬学会大会,富山,2007.9.8-9
- 18)星野卓之,及川哲郎,蒲生裕司,渡辺浩二,伊藤秀憲,花輪壽彦:13C 酢酸ナトリウムを用いた漢方処方の胃排出能評価,第24回和漢医薬学会大会,富山,2007.9.8-9
- 19)蒲生裕司,伊藤直樹,及川哲郎,花輪壽彦:オープンフィールド試験でのマウスの立ち上がり行動に対する漢方薬の影響,第24回和漢医薬学会大会,富山,2007.9.8-9
- 20)Watanabe.K., Hyuga. S., Oikawa.T., and Hanawa.T.: Estrogen-like activity of Kampo medicines used for menopausal symptoms, Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology, Tokyo, 2007. 9.21-25
- 21)伊東秀憲,日向須美子,日向昌司,渡辺浩二,及川哲郎,花輪壽彦,:Suppression of human breast cancer cell motility by serum obtained from volunteers orally given a Kampo medicine, maoto, 第66回日本癌学会学術総会,横浜,2007.10.3.-5
- 22)Oikawa. T, Ito. G, Hoshino. T, Koyama. H. and Hanawa. T.: A Kampo medicine, Hange-kobokuto (Banxia-houpo-tang), reduces bowel gas on patients with functional dyspepsia, The 14th International Congress of Oriental Medicine, Taipei, Taiwan, 2007.12.2-4
- 23)及川哲郎,伊藤 剛,星野卓之,花輪壽彦:消化管機能に及ぼす半夏厚朴湯の効果, ~ Functional dyspepsia 患者を中心とした検討 ~, 第7回日本臨床中医薬学会シンポジウム,東京,2007.12.9
- 24)及川哲郎:東京漢方入門セミナー,東京,2007.3.10
- 25)及川哲郎:消化器疾患と漢方(北里研究所病院との合同勉強会),東京,2007.5.18
- 26)及川哲郎:漢方医学の基礎~腹診~(所内第29回医学生、研修医のための東洋医学セミナー),東京,2007.7.30

- 27)日向須美子:漢方医学の理論~臨床応用をめざした漢方薬の基礎研究~(所内第29回医学生、研修医のための東洋医学セミナー),東京,2007.8.1
- 28)及川哲郎:胃腸病と漢方(所内漢方教室),東京,2007.9.15
- 29)及川哲郎:胃腸病と漢方(所内第7回東洋医学健康フォーラム),東京,2007.10.13
- 30)及川哲郎:漢方診療の実際2(北里大学大学院医療系研究科),東京,2007.11.30

研究助成金

- 1)伊藤直樹:平成19年度 科学研究費補助金(若手研究(B))(2007年6月15日)120万円
- 2)及川哲郎:平成19年度 第17回 北里研究所研究奨励金(2007年7月27日)
- 3)日向須美子:平成19年度 第17回 北里研究所研究奨励金(2007年7月27日)
- 4)遠藤真理:平成19年度 第17回 北里研究所研究奨励金(2007年7月27日)

-3. 医史学研究部

部長	小曾戸 洋
研究員	友部 和弘 天野 陽介 中戸 悦子
客員研究員	猪飼 祥夫 岩井 直子 上村 元顧 浦山 きか 大浦 宏勝 大津 幸恵 大塚 桂子 郭 秀梅 黄 崇修 小林 健二 アンドリュース・ゴッフル マティアス・ヴァグル 鈴木 達彦 高橋 良政 舘野 正美 戸出 一郎 西巻 明彦 長野 仁 野澤 隆幸 町 泉寿郎 三橋かほり 宮川 浩也 矢数 芳英

研究概要

当研究部の前身は 1983 年に設置された医史学研究室で、1992 年 12 月より医史学研究部に昇格し、この下に医史文献研究室が置かれる。東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから、豊富な経験と知識の多くは古文献の形で伝えられている。従って、東洋医学を研究し、現代に十分に応用していくためには、まず歴史背景そして文献資料を把握し、その本質を明らかにする必要がある。これが当研究部の研究目的とするところで、開設以来、各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ、日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ、各種の学会で大きな成果を上げている。研究の基本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ、既に日本全国はもとより、外国の特殊研究機関と交流を結び、多くの貴重資料を獲て収蔵している。

学会発表 (A)

- 1) 小曾戸洋・天野陽介・友部和弘・町泉寿郎・田中祐尾：田中弥性園の古医書，第 108 回日本医史学会学術大会，大阪，2007.4.7-8，第 108 回日本医史学会総会抄録号 53 巻 1 号 54-55，2007
- 2) 友部和弘・石野尚吾：垣本鍼源の刺絡，第 108 回日本医史学会学術大会，大阪，2007.4.7-8，第 108 回日本医史学会総会抄録号 53 巻 1 号，62-63，2007
- 3) 天野陽介・小曾戸洋・石野尚吾・花輪壽彦：謝観（利恒）と『中国医学大辞典』，第 108 回日本医史学会学術大会，大阪，2007.4.7-8，第 108 回日本医史学会総会抄録号，53 巻 1 号，64-65，2007
- 4) 郭秀梅：『医籍考』による『四庫全書総目提要』の考証，第 108 回日本医史学会学術大会，大阪，2007.4.7-8，第 108 回日本医史学会総会抄録号，53 巻 1 号，52-53，2007
- 5) 西巻明彦：口内炎の病因に関する変遷，第 108 回日本医史学会学術大会，大阪，2007.4.7-8，第 108 回日本医史学会総会抄録号 53 巻 1 号，118-119，2007
- 6) 鈴木達彦・遠藤次郎・中村輝子：『古今方彙』各種版本の検討，第 108 回日本医史学会学術大会，大阪，2007.4.7-8，第 108 回日本医史学会総会抄録号，53 巻 1 号，140-141，2007
- 7) 町泉寿郎・小曾戸洋・田中祐尾：田中弥性園の古文書・書画，第 108 回日本医史学会学術大会，大阪，2007.4.7-8，第 108 回日本医史学会総会抄録号，53 巻 1 号，154-155，2007
- 8) 友部和弘・石野尚吾・花輪壽彦：菅沼周圭『針灸則』と刺絡，第 58 回日本東洋医学会学術総

会，広島，2007.6.15-17，日本東洋医学雑誌，58 巻別冊号 2007 年，191，2007

- 9) 天野陽介・小林健二・小曾戸洋・石野尚吾・花輪壽彦：『中国医学大辞典』について，第 58 回日本東洋医学会学術総会，広島，2007.6.15-17，日本東洋医学雑誌，58 巻別冊号 2007 年，190，2007
- 10) 矢数芳英・星野卓之・蒲生祐司・渡邊浩二・天野陽介・花輪壽彦・小曾戸洋：『薬治通義』の研究(第 1 報)，第 58 回日本東洋医学会学術総会，広島，2007.6.15-17，日本東洋医学雑誌，58 巻別冊号 2007 年，187，2007

シンポジウム・講演会 (B)

- 1) 天野陽介：わかりやすい黄帝内経の世界，浜松市鍼灸マッサージ師会学術講習会，浜松，2007.1.21
- 2) 小曾戸洋：黄帝内経の医学基礎理論，日本東洋医学会第 16 回埼玉県部会教育講演，大宮，2007.3.11
- 3) 小曾戸洋：江戸の小児養育心得 『病家須知』より，第 30 回日本小児東洋医学会学術集会，京都，2007.4.21
- 4) 小曾戸洋：曲直瀬道三の事績と『啓迪集』，第 1 回伝統医学史セミナー，京都，2007.4.22
- 5) 小曾戸洋：漢方の歴史 古医書について，第 106 回東北漢方医学研究会，福島，2007.5.9
- 6) 小曾戸洋：漢方概論「漢方の歴史」，福岡県立医科大学平成 19 年度薬理学大学院セミナー，福島，2007.4-2008.2
- 7) 天野陽介：診断と治療の基礎「陰陽論」，静岡県鍼灸マッサージ師会学術講習会，静岡，2007.9.23
- 8) 小曾戸洋：不老長寿 - 中国の医学思想，経済同友会同友クラブ「健康ライフを考える会」，東京，2007.9.27

総説 (D)

- 1) 小曾戸洋：『日本薬局方』(15 改正) 収載漢薬の来源，生薬学雑誌，61 巻 2 号(2007)，68-78

プロシーディング (E)

- 1) 小曾戸洋：馬王堆医帛の形態復元に関する新発見，中国出土資料学会会報，34 号(2007.3)，6-10

著書 (F)

- 1) 小曾戸洋：NHK 知るを楽しむ - 歴史に好奇心 - 漢方なるほど物語，日本放送出版協会，2007.4.1

- 2) 小曾戸洋：黄帝内経太素，(財)武田科学振興財団，2007.4.6
- 3) 小曾戸洋：馬王堆出土文献訳注叢書 五十二病方，東方書店，2007.7.20

その他 (G)

- 1) 小曾戸洋：目で見る漢方史料館(221)，医祖神・名医肖像，漢方の臨床，54巻1号(2007.1)，2-4
- 2) 小曾戸洋：目で見る漢方史料館(222)，「熊宗立原医図」，漢方の臨床，54巻2号(2007.2)，2-4
- 3) 小曾戸洋：三輪卓爾先生を想う，日本医史学雑誌，53巻2号(2007.6)
- 4) 天野陽介・宮川浩也：目で見る漢方史料館(228)，「馬王堆出土の『雑療方』」，漢方の臨床，54巻8号(2007.8)，2-4
- 5) 小曾戸洋：目で見る漢方史料館(229)，「『黄帝内経太素』杏雨書屋所蔵本」，漢方の臨床，54巻9号(2007.9)，2-4
- 6) 天野陽介・小林健二：目で見る漢方史料館(230)，「大英図書館所蔵の敦煌医薬文書(5)卷子佚名灸方図」，漢方の臨床 54巻10号(2007.10)，2-4
- 7) 小曾戸洋・天野陽介：目で見る漢方史料館(231)，「祥雲寺と曲直瀬今大路家の墓」，漢方の臨床，54巻11号(2007.11)，2-4
- 8) 小曾戸洋：目で見る漢方史料館(232)，「神農画賛二題 - 曲直瀬玄朔・畑柳泰」，漢方の臨床，54巻12号(2007.12)，2-4

臨床試験部門

臨床試験部門長 花輪壽彦
臨床試験管理室
室長 小田口 浩
室員 若杉安希乃

臨床試験管理室は2007年4月に発足した新しい部署である。その目的は漢方医学におけるEvidenceの構築であり、臨床試験の実施が中心となる。現在北里研究所病院との共同研究という形でいくつかの臨床試験が進行中であり、今後も拡充していく予定である。また、漢方医学診断に客観性をもたせるための疫学的研究も計画している。

原著論文

- 1) H.Odaguchi, A.Wakasugi, H.Ito, H.Shoda, Y.Gono, S.Kim, M.Endo, T.Oikawa, F.Sakai and T.Hanawa, :Statistical Analysis of the Findings in Patients Responded to Goshuyuto., 日本東洋医

学雑誌，58(6)：1099-1105(2007)

総説

- 1) 小田口 浩，若杉安希乃，花輪壽彦：頭痛の漢方療法，総合臨床，56(4)：718-722(2007)

症例報告

- 1) 小田口 浩，五野由佳理，齋藤絵美，花輪壽彦，：円形脱毛症に人参湯加味方が効果を示した症例，漢方の臨床，54(6)：942-946(2007)

学会研究会発表

- 1) 小田口 浩，花輪壽彦，：レスポonder限定試験による漢方薬薬効評価の試み，第1回愛媛東洋医学カンファレンス，松山，2007/1/15
- 2) 小田口 浩，若杉安希乃，正田久和，伊東秀憲，蒲生裕司，渡辺浩二，星野卓之，及川哲郎，花輪壽彦，：軽度高血圧患者に対する病名処方の試み，第58回日本東洋医学会学術総会，広島，2007/6/15-2007/6/17
- 3) H.Odaguchi, A.Wakasugi, T.Oikawa and T.Hanawa, :The efficacy of the Kampo(Japanese herbal medicine) formulas on the cardiac autonomic balance, 5th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN2007), 京都，2007/10/5-2007/10/8
- 4) 若杉安希乃、小田口 浩、正田久和、伊東秀憲、蒲生裕司、渡辺浩二、星野卓之、及川哲郎、花輪壽彦，：腹部動悸と瞳孔自律神経バランスの検討，第58回日本東洋医学会学術総会，広島，2007/6/15-2007/6/17
- 5) A.Wakasugi, H.Odaguchi, T.Oikawa and T.Hanawa, :Reduced lateralization of pupillary dynamics in patients with chronic headache by Kampo medicine (Japanese herbal medicine), The 27th Pupil Colloquium, 静岡，2007/10/1
- 6) A.Wakasugi, H.Odaguchi, T.Oikawa and T.Hanawa, :Effects of Kampo medicine(Japanese herbal medicine) on pupillary dynamics in patients with chronic headache, 5th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN2007), 京都，2007/10/5-2007/10/8

シンポジウム等

- 1) H.Odaguchi:How should we evaluate the efficacy of traditional medicine?-Our experience assessing a Kampo (Japanese herbal medicine) drug with a new clinical trial design, International Scientific Conference on Integrative Medicine in community health care, Vietnam, Hanoi, 2007/6/5-2007/6/9

- 2) 小田口 浩：研究面から見た気剤の科学知，第 24 回和漢医薬学会大会，富山，2007/9/8-2007/9/9
- 3) 小田口 浩：呉茱萸湯証の再考 漢方医学の特徴に配慮したランダム化比較試験の検討 ，第 16 回日本脳神経外科漢方医学会学術集会，東京，2007/11/10
- 4) 若杉安希乃：漢方薬の客観的評価方法の確立 瞳孔自律神経バランスを用いて、学会奨励賞受賞講演，第 24 回和漢医薬学会大会，富山，2007/9/8-2007/9/9

その他

- 1) 若杉安希乃：漢方薬が瞳孔反応に及ぼす影響について(第 4 報)，自律神経，44(2)：114-115 (2007)